

はこぶ。未来へ

FUSO magazine

No. 103

2026
07/08

特集

Japan Truck Show 2026

物流の「今」を変えるパワーが集結





CONTENTS



③

“つなぎ”に染み込んだチャレンジャー魂！

挑戦し続けるものたち

山進運輸株式会社 山口 尚文氏

⑥

NEW CEO MESSAGE

お客さまと共に“永続的な物流”を目指す

⑦

持続的な社会に向け、eCANTERで実証実験！
線なし・手間なしワイヤレス充電

⑧

横浜港をイメージした世界観がユニーク！

特集 Japan Truck Show 2026

物流の「今」を変える パワーが集結

⑫

30周年特別仕様車を90台限定で製造！

乗り継がれて30年

SUPER GREATの過去・現在・未来

⑭

FUSO NEWS

⑮

一流になるための秘訣を伝授

夢のチカラ

サッカー解説者 福田 正博さん

⑱

三菱ふそうからのお願い

⑲

READER'S VOICES / PRESENT



©FUSO magazine
本誌掲載の記事、写真、イラスト等の
無断複写、転載を禁じます。

挑戦

し続けるものたち

Those Who Keep Challenging
Past, Now, and Future

他社の事業を引き受け、
未来へ投資。
利他の経営に今日も全力

山進運輸株式会社
代表取締役 社長
山口尚文

鳥取県境港市竹内団地158番地
設立:1993年
事業内容:水産加工物・鮮魚を中心に
食品全般の運送
従業員数:79名(2026年4月30日現在)
車両台数:61台(2026年4月30日現在)

Summary

Past

人の2倍働く

社長の息子として入社し、集荷や運転など現場仕事に従事。「人の2倍働く」という意志で、まさに必死で業務をこなし、少しずつ社内外の信頼を得る。関連企業を吸収する大きな決断をし、一気に社員数が2倍に。

Now

新分野へ投資

山進運輸にとってのお客さまや地域の声に応えるべく、これまで挑戦してこなかった分野への設備投資を計画・検討している最中。また、社長就任後毎年1つずつ、「社員の待遇改善」を行っている。

Future

どう引き継ぐか

実はずっと、「いつどのように辞めようか」と考え、会社を「元気な状態」で次代へ引き継ぐことを意識してきた。親族内承継やM&Aなどの選択肢の中で、山口氏が選んだのは？

山口社長に
質問!

三菱ふそうのことQ&A

Q.三菱ふそうを選んだ理由と、
ドライバーからの評判は？

A. 山陰エリアでは以前からブランド力や信頼感があり、会社設立時から三菱ふそう車でした。車両はもちろん、皆さんのサポート体制がよく、ドライバーも安心して業務に向き合えています。

Q.担当者との
印象的なエピソードは？

A. 現場での車両トラブル発生時、積み替えや故障車への対応などがいつも真摯なので記憶に残っていますね。困ったときの対処ほど大事だと思っていますから。その積み重ねが、信頼につながっています。

Q.三菱ふそうに望むことは？

A. 社会全体で人手不足ですが、整備体制の維持・強化には期待しています。地元周辺は安心なのですが、長距離輸送時、出先・遠方での対応力を強化いただけるとより安心につながりますよね。

質問者:
三菱ふそう中国地区
鳥取支店米子整備工場
営業一課 藤田幹夫(左)
整備・フロント 松本昌幸(右)



Past 人の2倍働く 覚悟の上でも厳しかった 信頼を得るまでの5年間

「仕方がないことですが、周囲からずっと『きみが社長の息子か…』という目で見られていましたね」

大学卒業後、父の運送会社を継ぐことを決めた山口氏。社会の洗礼ともいべきか、社内外で常に「世の中甘くないぞ」という空気が漂っていたという。だが「人の2倍仕事しよう」と心に決め、基幹業務である水産加工物や鮮魚の輸送に励んだ。すると突然ある変化が起きたという。

「5年経ったくらいでしょうか、周囲の人の反応がよくなってきたんです。ああ、少しずつ認められてきたのかなと感じましたね」

そんな「がむしゃら期」に会社は大きな転機を迎える。ある大手食品系物流会社の子会社で、事業を撤退することになった。そこへ「社員と業務を引き継いでくれないか」という申し出があったのだ。

「経営的に難しい状況ではあったのですが、父と話し合い、『この業務はうちが受けなければ絶対に誰かがやる。ならばうちでやろう』と、吸収合併を決めたんです」

当時約30名だった山進運輸は、その子会社の社員30名を加え、突如2

Past, Now, and Future

挑戦

し続けるものたち

Those Who Keep Challenging
Past, Now, and Future

倍の規模に。新事業のことを一任された山口氏は新しい社員と共に新しい仕事に挑んだ。同じ物流企業とはいえ山進運輸が運んでいたのは水産加工物や鮮魚。その子会社が運んでいたのは大手メーカーの食品で、管理や輸送方法が異なる。だがここでも試行錯誤しながらとにかく働いた。結果的にこの吸収合併が功を奏し、現在では水産加工物や鮮魚を運ぶ、従来から主力の第一営業部と、大手メーカーの物流を担う第二営業部という二枚看板体制になった。実は水産加工物や鮮魚を扱う運送会社が他の食品を運ぶケースは多くない。しかも両事業の性質が異なるためお互いのノウハウを補完し合えるそうで、大きな強みを持つ企業となった。



Now 新分野へ投資 情けは人のためならず。 無欲が成功の秘訣？

そんな山口氏が、2026年初夏時点で、高額を必要とする、とある投資に挑戦しようとしている。

「詳しくは言えないのですが、お客さまや地域のニーズに応じて、新たな分野への巨額の設備投資を検討しています。『お客さまと一丸になつて挑む』と言うと聞こえはいいですが、結局『一緒に伸びていくもの』なので、自分たちのためでもあるんです」

寝る間も惜しんで働いたり、困っていた会社の社員や事業をそのまま引き取ったり。はたまた大きな投資にも挑戦しようとするその勇気や行動力の源は何なのか。



山口氏の挑戦を象徴するアイテムは、20代の頃に着ていた“つなぎ”。「必死だった時期の思い出が詰まっていて、これを見ると初心に戻れますね」としみじみ語ってくれた。



山口氏と談笑する社員の皆さま。
仲のいい様子が見て取れる。

「自分は物欲や『こうなりたい』というものがなくて、お客さまや地域に求められるからやっています。人が喜んでいることでしか満たされない、損な性格なんです」
そう笑うが、きつと経営者としては必要な資質の一つだろう。山口氏らしさは社内の取り組みにも表れていて、毎年一つずつ、必ず「社員の待遇改善」を行っている。

「会社が順調なのは自分がすごいわけではなく、ドライバーをはじめ、社員のおかげ。だから待遇をよくすることから目を背けてはいけないと思います。『自分の人柄についてきてくれている』なんてあぐらをかいたら終わります」と山口氏。そういう性格だからこそ周りに認められ、慕われ、会社を成長させたのだろう。

Future どう引き継ぐか

全力疾走してきた。
その速度のままバトンパスを

将来を考えたとき、避けて通れないのが承継の問題。これまで全力疾走してきた山口氏だけに「生涯現役」を貫くのかと思いきや、実は社長就任時から、「どう幕を下ろすか」を意識してきたそう。

「正直なところ、『売却してラクになりたい』とも思っていたのですが、大学生の息子が『継がせてほしい』と言ってきましたね」と困り口調ながらも、顔がほころぶ山口氏。M&Aにし



海とマッチするブルーのSUPER GREAT。奥に見えるのは鳥取県が誇る良港、「境港」。

Those Who Keep Challenging

る親族内承継にしろ、会社が元気になるうちに次代へつなぐことが重要」という考えを持っている。

「若い後継者がいて、どんどん新しい刺激を入れている会社が成長していくもの。そうしないと、気づけば自分が時代についていけなくなっていて、手遅れになると思います。昨今は時代の移り変わりが特に激しいのでなおさらです」

とはいえこれまでは常に「引き継いだ会社をつぶしたくない」という一心で、「引き下がる選択肢」は積極的に取ってこなかった。やはり「自分」ではなく「未来の社会」を思えばこそ、前向きで他者思いの山口氏らしい挑戦である。



毎年「J-クレジット」というカーボンクレジットを一定量購入するなど、サステナブルな取り組みも積極的に行っている。

お客さまと共に “永続的な物流”を目指す

2026年4月、三菱ふそうトラック・バス株式会社のCEOは
カール・デッペンからフランツィスカ・クスmanoに交代しました。
社会や物流を取り巻く環境が大きく変化するなかで、
三菱ふそうはお客さまにどんな価値を届けていくのか。
新社長よりご挨拶させていただきます。

最初に、多大なる感謝を

皆さま、誠にありがとうございます。まずお伝えしたいのは、日頃より三菱ふそうの車両とサービスを信頼し、事業のパートナーとして選んでくださっているお客さまへの感謝です。三菱ふそうは、お客さまのビジネスを支えるために存在しています。だからこそ、私たちのすべての判断と挑戦は、お客さまがより安全に、効率的に、永続的に事業を続けていくためのものでありたいと考えています。

物流は世界を変える力がある

トラックやバス、そして物流の魅力は、世界中から必要とされていることです。私はもともと、エンジンやトラックの仕組みに興味があり、鑄造部門で技術・開発に携わってきました。そこから、メルセデス・ベンツのスペシャルトラック部門の最高責任者を任されるなどして、チームが大きくなっていったときに、“みんなと一緒になら、社会・世界をよりよい方向に変えることができる、なんてやりがいのある仕事なんだ”、ということに気づきました。

ぜひ皆さまと一緒に

日本の物流業界は、ドライバー不足・高齢化、コスト上昇、環境対応など、多くの課題に直面しています。これらを解決するためには、お客さまをはじめ、弊社の販売会社、サービス拠点、さらに行政などが力を合わせ、共によりよい策を講じていく必要があります。ぜひとも「Future Together」をスローガンに、安全で持続可能な物流の未来を、皆さまと一緒につくりていきたいです。



代表取締役社長

フランツィスカ・クスmano

ドイツ・ハイデルベルク出身。2008年にダイムラー・トラックへ入社し、エンジン鑄造部門を皮切りに、技術・開発、プロダクトマネジメントなど幅広い領域を経験。南アフリカ、アメリカなどでも業務をこなし、国際的なキャリアを重ねる。直近ではメルセデス・ベンツ・スペシャルトラックの責任者を務めた。2026年4月、三菱ふそうトラック・バス株式会社のCEOに就任。

幼少期のことや趣味、CEO就任時の気持ちなど、さらに詳細なプロフィールはこちらから！



大切にしたいこと

「3つのテーマ」について、三菱ふそうが大切にしている「想い」をご紹介します。

Theme 1

物流関連企業の皆さま

- お客さまはただの取引先ではなく、共に未来をつくるパートナー。皆さまと共に考えていかなければ、いいトラックは生まれません。ですのでこれからも対話をしながら、良好な関係を築いていきたいです。
- 現場で本当に必要とされる価値を届けることを大切にしたいです。日々の輸送や運行における安全や効率、そして事業の継続を支えてまいります。

Theme 2

三菱ふそうのトラックと人材

- 私はトラックの技術・開発にも携わっていましたが、弊社のトラックの品質には自信を持っています。今後さらにゼロエミッション化や、安全運転支援技術の向上に尽力します。
- 弊社の社員は、そんなトラックに対して誇りを持っています。トラックについて質問をすると、みんな目を輝かせながら語ってくれます。だからぜひトラックの品質も人材も信頼していただきたいです。

Theme 3

未来の物流

- 小型のEVトラック、長距離輸送用の大型水素トラック、未来にはどちらも必要。インフラや法律の問題もあるので、社会全体で一般実用化する方法を模索しなければなりません。
- 世界のエネルギー問題もあり、物流を取り巻く課題は複雑ですが、未来には大きな可能性があります。電動化や水素、安全支援技術などを通じて、より持続可能で強い物流のカタチを、共に実現しましょう。

持続可能な社会に向け、eCANTERで実証実験！

線なし・手間なしワイヤレス充電

「ケーブルを取り出し、トラックへつなぎ、終わったら片づける」といったEV充電の作業を簡略化できないか？ 三菱ふそうは株式会社ダイヘンや名鉄NX運輸株式会社、株式会社三菱総合研究所と共にワイヤレス充電の実証を行ってきました。充電のしやすさや今後の可能性をレポートします。

ワイヤレス充電の仕組みと実験の様子

今回の実証実験では、名鉄NX運輸株式会社の拠点に専用の充電設備を設置。ドライバーが所定の位置にeCANTERを駐車し、キャブ内のスイッチで充電開始。一連の流れを検証しました。

仕組み



磁界共鳴方式のワイヤレス電力伝送技術により、車両後部の受電コイルが、地上側の送電コイルから発生する磁界を受けて電力に変換。受電ユニット、ジャクションボックスを経由して高電圧バッテリーへ電力を送ります。

◆ワイヤレス充電のメリット

- **降車やケーブル脱着の必要がなく**、安全性や業務効率が向上
- 将来的には、**走行中に充電**する技術への発展も期待される
- **こまめな充電**で、バッテリーの小型化・長寿命化の可能性も

ケーブルがあることで、足を引っかけて転倒したり、特に雨天時に手が汚れたりというデメリットもあったが、ワイヤレスなら安心。送電システムを地面に埋め込み、走行中に充電することも可能性はゼロではないそう。

充電方法

充電設備の位置を確認



通常の駐車と同様、駐車スペースを確認。枠の中央に収まるよう、輪止めの位置までバックで駐車する。

駐車サポートカメラを見ながら入庫



カメラをONにして入庫。駐車枠やモニターに映る送電コイル、輪止めを目安に、車両を正しい位置へ。駐車したら充電開始ボタンを押すだけでOK。

充電開始！



充電が始まると、メーター内の充電インジケーターで残りの充電時間などを確認できる。

実験結果

入庫のしやすさ：△

理由：正確な位置に止める必要があるため。ただ専用輪止めや、駐車枠内の黄色の補助線、送電コイルを映し出すモニターのおかげで、慣れれば問題なし。

充電しやすさ：○

理由：ケーブルを取りまわす必要がなく、キャブ内からボタン一つで充電スタートできるため。

充電時間：○

理由：普通充電器と大きく劣らない出力のため。

課題はさらなる利便性やインフラ整備

今後は「位置ズレ」への許容範囲拡大、より簡便な駐車サポート、機器の小型・軽量化、コスト低減などがテーマに。技術だけでなく、事業性や制度面の検討も必要です。

◆実験に参加したドライバーの声

まだ実験段階で貴重なトラックを運転できたことが、誇らしい気持ちです。雨の日や夜間にケーブルを扱わなくていいのが魅力ですね。しっかりと業務をこなし、フィールドバックしていきたいです。



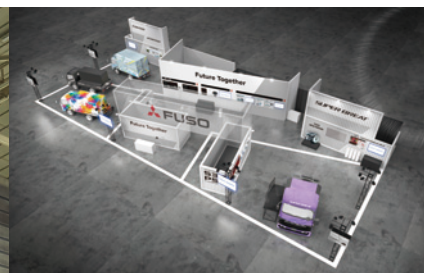
Aさん

実験の成果は上々。さらなるEV普及を後押し

環境省主導のもと、2024年から開始した運輸業におけるワイヤレス充電の実証実験。三菱ふそうのほか、充電器メーカーの株式会社ダイヘン、名鉄NX運輸株式会社、株式会社三菱総合研究所が参画して事業を進めてきました。実際、降車をせずに充電できるため、日々のEVトラックの運用効率向上やドライバーの負担軽減に役立つ可能性を感じました。

今後は、利便性の追求はもちろん、導入コスト低減、インフラの整備、法規制といったさらなる課題を検証し、知見を集めるとのこと。なお関係者いわく、技術的には、送電システムを地面に埋め込み、走行中に充電することも夢ではないそうです。

えるパワーが集結



ブースのモチーフは 港湾輸送とコンテナヤード

ブースのデザインは「横浜」や「港」「トラック」をキーワードに、港湾輸送を象徴するコンテナヤードをイメージ。コンテナの左右から三菱ふそうのトラックが行き来し、活気ある物流シーンを表現しています。

ブースの正面入り口では、巨大な「FUSO」のロゴと、ブランドスローガン「Future Together」の文字が来場者を出迎え、ブース左側には新型CANTERとeCANTERを、右側にはSUPER GREAT FV-Rを配置。小型から大型まで幅広いラインアップを展開する三菱ふそうの強みを示しました。



2026年5月14日から16日までの3日間、パシフィコ横浜で国内最大級のトラック関連総合展示会「ジャパントラックショー2026」が開催されました。三菱ふそうは「ともに走り、今を動かす力」をブースコンセプトに掲げて出展。コンテナヤードをイメージしたブースには新型CANTER、eCANTER、そして発売30周年を迎えたSUPER GREATと、主力ブランドが並びました。

ブース内で特に存在感を放っていたのが、第五輪荷重20tに対応する「SUPER GREAT FV-R」です。

久々の復活を果たしたセミトラクタで、特別塗装色も相まって注目の的。また、併せて展示されたSUPER

運行を支える技術で 来場者の関心を集める



来場者をご案内
「つなぎ」のユニフォームを身にまとったスタッフは、ブースのナビゲーター。明るく丁寧に来場者を案内し、ブースの活気を支えています。

ブース内をガイド!

専属MCがブース内の各コーナーを巡り、展示車両やサービスの見どころを詳しく解説。三菱ふそうが提案する物流の「今」と「未来」を分かりやすく紹介しました。



物流の「今」を変

国内最大級の展示会に物流関係者が集結。

業界の変革へ挑む三菱ふそうが提示した最新の課題解決策と、熱気あふれる会場の模様をレポートします!

SUPER GREAT FV-R



SUPER GREATデビュー30周年! フラッグシップモデルの新機軸

デビュー30年の軌跡とともに、ユーザーの要望に応えるセミトラクタタイプを展示。



国内最大530馬力、第五輪荷重20tを誇るFV-R。新型樹脂フェンダーやサイドスカートも車体のデザイン性を際立たせます。

普段ミラーを製造していますが、実車で安全性や快適さを実感。ミラーも見やすく、貢献できていることを誇らしく感じました。
埼玉県 Kさん

来場者の声 /



担当者の声 /

第3世代の6Rエンジンとして全面新設計しています。燃費性能の大幅向上、低速域でのトルク増大により運転の余裕感が向上し、坂道や追い越し時の運転が楽になったと好評です。

三菱ふそう/パワートレイン開発本部
三島祐一郎



SUPER GREATのエンジン「6R30」を内部構造が見えるカットモデルで展示。

内部構造がまるわかり!

エンジン カットモデルを展示

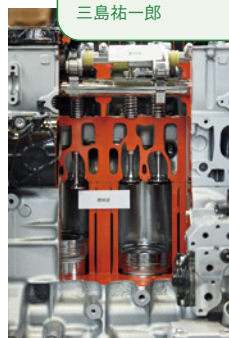
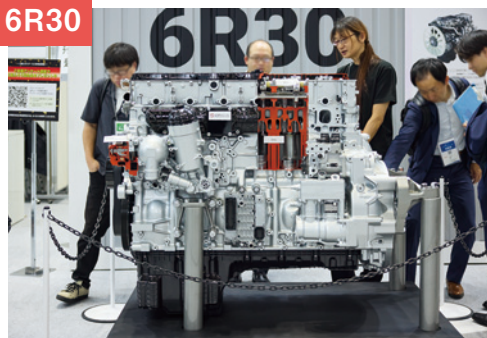
SUPER GREATのエンジン「6R30」を内部構造が見えるカットモデルで展示。「大きい!」「迫力がある」といった声があふれました。

FUSOプレミアムエンジンオイル



展示したのはCANTER用の「0W-30」とSUPER GREAT用の「0W-20」の2種類。エンジン性能を引き出す合成オイルの魅力を興味深くチェックする来場者の姿が目立っていました。

6R30



「SUPER GREATの乗車体験には長い列ができ、来場者が運転席に座って車両の大きさや室内空間を確かめる姿も。車両に加えエンジンやオイルまでセットで紹介し、日々の物流を支え、今を動かす力をアピールしました。」

GREATエンジン「6R30」は、従来型との変更点などを普段見られないエンジンカットモデルで示すことでわかりやすく紹介し、来場者の高い関心を集めました。

New Era®×CANTER展示用特別仕様車



「仕事も、スタイルも。あなたのキャンターで。」をコンセプトに、New Era®とのコラボレーションを記念する特別仕様車を展示。

担当者の声 /

CANTERは荷物を運ぶだけでなく、働く方々の新たな自己表現の一部となる存在として再定義したいと考えました。商用車初となるアパレルブランドとのコラボレーションという入り口を作ることで、CANTERをより身近に感じていただきたいです。
三菱ふそう／国内販売・カスタマーサービス本部
(左)森武理衣奈・(右)津谷木実



車両の荷台横にキャップを展示して今回のコラボレーションをアピール。



プレゼントキャンペーン実施中



自家用CANTER(レンタカー除く)お見積後に特設サイトから応募すると、抽選で計1,000名さま*にコラボレーションキャップをプレゼント。

CANTERのWebサイトもリニューアル!



詳しくはこちら



★第1回応募期間は終了。現在、第2回応募期間中(各回、抽選で500名さまとなります)。

テーマは“十人十色” 新しいCANTERが登場

今年2月発表の新型CANTERを公開。「十人十色のビジネスに。」をテーマに、New Era®とのコラボレーションによる新スタイルの提案、大幅に改良したエンジン「4P10+」による性能向上など、多様な現場に寄り添う進化を披露しました。

新型CANTER



白をベースにした車体にカラフルな塗装を施すことで今回のテーマを表現。機能面ではエンジンの大幅改良により、一部の車種に関してJH25(2025年度重量車燃費基準)を「+5%オーバー達成」。快適性、安全性も向上しています。

コンセプトにぴったりなカラーに惹かれました。でも硬派なトラックも大好きで、New Era®とのコラボもかっこ良かった。
神奈川県 Tさん



来場者の声 /

持続可能な物流へ
多彩なアイデアを展示

「十人十色」をテーマに、「New Era®」との異業種コラボレーションやプレゼント企画などを展開した新型CANTER。そして、9年の運用実績と架装の広がりを伝えたeCANTER、EVトラック導入を支えるビジネスソリューションやデジタルサービス、さらに水素技術やワイヤレス導入システムなどの次世代技術も紹介。多角的な視点から物流の課題に 대응、三菱ふそうの具体的なロードマップを提示しました。

その他、SNSに写真投稿することでオリジナルグッズが当たるスロットくじに参加できたり、来場者のお子さまたちが工具を使った業務体験ができたりと、多くの仕掛けで来場者を魅了。また、ビジネスラウンジでは、三菱ふそうの戦略を知りたい関係者の相談や技術導入への質問が絶えず、ブースへの来場者数は3日間で約3万7000人を記録。FUSOブランドへの期待と業界の変革へ挑む熱気に満ちた3日間となりました。

「珍しい」から「あたり前」へ eCANTERの9年の 運用実績を展示

3,500台以上の販売実績と豊富な架装ラインナップで、いまや幅広い用途に対応可能なeCANTERの魅力を展示。国内3,500kmを走破した「水曜どうでしょうキャラバン2025」での取り組みも紹介されました。

eCANTER



車体は「近未来×アースカラー」でトラックショー用にアレンジ。9年間の運用実績を伝えるパネル展示や動画も公開されました。

にぎわいと交流を生んだ 多彩なコーナー

キッズメカニック体験



キッズコーナーでは、工具を使ってナット締めにも挑戦。整備士さんからの表情で作業に取り組んでいました。



ショーの最終日には、大きなCANTERのイラストに一人ひとりが思い思いの絵を描きました。個性豊かな絵が並び、「十人十色」を感じさせる仕上がりとなりました。

来場者の声 /

整備士さんのような体験ができて子どもも楽しそうでした。来場の良い思い出になりました！
三重県 Hさんご一家



三菱ふそう_ショップ



公式オンラインショップで販売中のグッズや限定アイテムを展示。いつでも純正パーツを注文できる利便性を知り、その場で会員登録されている方もいらっしゃいました。

物流の持続可能性を追求 各種ソリューションを パネル展示

自動運転、ワイヤレス充電、水素トラックといった三菱ふそうが研究・開発中のソリューションをパネル展示。多くの企業との協業で開発を進めている様子を紹介しました。

担当者の声 /

次世代取り組み 紹介コーナー



ブース中央に大きく貼り出されたパネルは多くの来場者の足を止めていました。

来場者の声 /

弊社は輸送の脱炭素化を進めていて、EVトラックはもちろん、他の先進技術の導入も視野に入れています。三菱ふそうさんの今後の小型～大型トラックの取り組みを知ることができ、とても参考になりました。
千葉県 Kさん



EVトラックに対応するワイヤレス充電システムを紹介しました。車両へのケーブル接続が不要で、運転席からボタンを押すだけで充電できます。実証実験を通じて、現場の反応なども確かめながら課題を検証し、知見を集めています。
三菱ふそう／モビリティ・トランスフォーメーション本部
菊地隆文



パネル展示された その他のソリューション & サービス

ビジネスソリューションコーナー

- イブニオン
- ダイムラー・トラック・ファイナンシャルサービス・アジア株式会社(FUSOグリーンリース、FUSOパワーリース)

デジタルサービス紹介コーナー

- ワイズ システムズ
- トラックコネクト

ふそうロタリー



ブース内の主要スポットで撮影した写真にハッシュタグをつけてSNSに投稿すると挑戦できるスロットくじ。3つの絵柄がそろうと当たりで、賞の内容に応じた景品がプレゼントされました。

来場者の声 /

重機メーカー勤務ということもあり何度か来場していますが、まさかG-SHOCKをいただけるとは！三菱ふそうブースに立ち寄って本当に良かったです。
青森県 Oさん





1996年の誕生以来、長距離輸送の現場を支え続けてきたSUPER GREAT。

贈り主の想い、お客さまの安心、

そして社会の未来を載せてきた30年の歩みを振り返ります。

～乗り継がれて30年～

SUPER GREATの 過去・現在・未来



The 30-year History of SUPER GREAT

新開発エンジンとBlueTec テクノロジーを搭載

6R10型エンジンとBlue Tecテクノロジー (DPF + 尿素SCR) により、力強い走りと環境性能を両立。燃費や排出ガス低減のニーズに応えました。

フロントスタイルを一新



排出ガスをさらに低減したモデル。グリル部分などフロントのデザインを変更し、より洗練された印象に。バンパーヘッドライトも斬新でした。

初代SUPER GREAT、見参！



ドライバーに寄り添う快適性と、輸送品質を支える基本性能を磨きました。大型車の新時代を切り開いた記念すべき初代モデルです。

2010

2007

1996

1951

公道を走れるW122トラクタが 岩手にあった！

1950年代から活躍したWシリーズトラクタは、三菱ふそう大型車の原点ともいえる存在です。岩手県二戸市では今なお、林業を営む荒川商事有限会社が所有する「W122トラクタ」が、大切に受け継がれていました。

「岩手ふそうさんにW122トラクタがあるのを見つけて『このままだとスクラップになる』というので、購入して引き取りました」と話すのは、荒川吉代会長。現在業務には使用していないとのことですが、「存在感」は別格だとか。

「全輪駆動で牽引力があるから、業務で使用する破砕機を移動させるのに向いているんです。ただ、現場は狭いので幅寄せの際に支障があり、使ってはいません。でも会社に置いてあるでしょ？ そうすると目立つのか、従業員はもちろん、出入りする業者の方もみんな興味津々でね(笑)。だからナンバーを取得して、走れるようにはしています」(同会長)。

長い年月を経てもなお存在感を放ち続ける姿は、当時のものづくりの確かさと、オーナーの深い愛情を物語っていました。



荒川商事 会長
荒川吉代さん



代表取締役
荒川吉広さん

Pick Up 01

1951～70年代 大型車の祖ともいえる Wシリーズトラクタが活躍

戦後の復興期から高度経済成長期へ。大型輸送の現場ではWシリーズトラクタが活躍し、三菱ふそう大型車の礎を築きました。

三菱ふそうが継承

三菱ふそうではこの車両を譲り受け、今後は動態保存をしてさまざまな用途で活用していく予定です。



左から、2021年モデル、W122トラクタ、2024年モデル(現行版)。歴史を感じる壮観な眺め。



進化し続ける大型トラック 常に「その先」を目指して

1950年代以降活躍したWシリーズトラックから、83年に登場した「ザ・グレート」、そして96年に誕生したSUPER GREAT、ATへ。走りの力強さや馬力が求められた大型トラックは、時代ごとの物流の課題と向き合いながら進化。現行モデルではドライバーを支える先進安全技術や、日々の運行を考えた快適性や経済性が求められるなど、その価値は広がり続けています。乗り継がれてきた30年は、三菱ふそうが現場と共に歩んできた歴史そのものです。昨今では自動運転の実証実験や水素トラックの実証にも起用され、未来を担うトラックとしての期待も。今後も輸送ビジネスの頼れる相棒として、次の時代でも走り続けます。

記念に90台製造！ SUPER GREAT30周年特別仕様車を 展開予定



外観はオリジナル塗装 & 30周年エンブレムを採用し、室内は専用シートカバーやフロアマットを用意。長く愛されてきたフラッグシップモデルならではの、特別感を込めた一台です。

トラクタも運転支援機能を強化



第五輪荷重20tを誇るトラクタタイプを追加。自動運転レベル2のセミトレーラー実証を開始しました(P9もご参照ください)。



自動運転レベル2の 高度運転支援機能搭載

進化した衝突被害軽減ブレーキを搭載。高速道路での運転負担を軽減し、より安心して走れる大型トラックを目指しました。



2025

2024

2019

2017

Future

大型トラックの進化は、とどまるところを知りません。SUPER GREATは未来の輸送を見据え、挑戦を重ねていきます。



現行版に モデルチェンジ！ 燃費・安全性が向上

フロントに「ふそうブラックベルト」を採用。燃費性能と安全性をさらに向上し、三菱ふそうの顔として活躍中です。

21年ぶりのフルモデルチェンジ！



エクステリアはもちろん、キャブやパワーブレーキを刷新。安全性・快適性・経済性を総合的に高めた新世代へ進化しました。

SUPER GREATで実現！？ 自動運転車も次世代燃料車も

人手不足や脱炭素への対応など、大きな転換期を迎えている物流業界。未来のSUPER GREATに期待されるのは、高度な運転支援から自動運転技術、次世代燃料への対応、車両データを活用した効率的な運行など。これからは社会を支え続けます。



Pick Up 03

三拍子そろった安心の現行モデル

安全性

先進安全機能がドライバーの認知・判断をサポート。前方・側方のリスクに備え、日々の輸送にさらなる安心をもたらします。

快適性

視界のよさや運転しやすさ、過ごしやすいキャブ空間を追求。長時間の運転でも疲れにくく、ドライバーを支えます。

経済性

燃費性能やメンテナンス性を高め、車両を使い続けるうえでのコストに配慮。経営にもうれしい一台を目指しました。

Ceremony

株式会社サトウロジックへ eCANTER3台を納車

2026年5月8日、熊本県菊池郡大津町に本社を置く株式会社サトウロジックへeCANTER3台を納車し、納車式を開催しました。

株式会社サトウロジックは、長年にわたり半導体・精密機械物流の分野で活躍し、豊富な経験と実績を基に、自社のCO₂排出ゼロにとどまらず、サプライチェーン全体でのCO₂排出ゼロを目標に掲げ、2040年のネットゼロ実現を目指しています。

eCANTERの導入には、脱炭素に向けた強い思いが込められています。また、今回のeCANTER導入に合わせ、再生可能エネルギーを活用した急速充電設備を備える「EV共同配送センター」の竣工も進めるなど周辺設備にも力を入れています。

当日の納車式には、佐藤社長、佐藤専務をはじめ、多くの関係者が出席しました。



Ceremony

子どもたちの絵を あしらったeCANTERを納車

2026年4月4日、福井県越前市に本社を置く名神運輸株式会社へeCANTERを納車しました。

荷主さまの新工場完成に伴い、EV車両による製品出荷を提案し、合意に至ったことをきっかけに導入が決定しました。

導入にはLEVO補助金の複数年度申請を活用。また、環境対応車導入1号車を記念し、山内慎吾社長のアイデアにより、社員のお子さんやお孫さんが描いた絵を車両へラッピング。納車時には、絵を描いたお子さんやご家族も招待され、環境に配慮した輸送を実現する車両として披露されました。



Release

新型eCANTERに国内EVトラック初(*)のクレーンシャシを設定。2.9t吊りクレーンの架装に対応します。展開は総重量6t～8tクラス、標準幅からワイド幅まで、用途に合わせた車両選択が可能です。

*2026年6月現在。MFTBC調べ。



新型eCANTERに
クレーンシャシが登場

CANTER

新型CANTER

3つの耳寄り情報をお届け

New Era®との コラボキャンペーンを実施

新型CANTERの「十人十色のビジネスに。」というテーマのもと、グローバルブランド「New Era®」とのコラボレーションが実現。現在実施中のキャンペーンでは、応募者の中から抽選で計1,000名にコラボレーションキャップをプレゼントします。また、コラボレーションを記念した展示用特別仕様車を「ジャパントラックショー2026」で初公開しました。



詳しくはこちら



安全性・操作性を高めて新発売

新型CANTERを一部改良し、全国で販売を開始しました。2026年9月から適用の法規制に対応するため、従来オプション設定だった電動パーキングブレーキを標準装備化。安全性と操作性の向上に貢献します。



7、8月に大阪の建築系展示会へ出展

三菱ふそうは、7月の「建築・建材展 大阪」と8月の「JAPAN BUILD OSAKA 建材・設備 EXPO」に出展。木材や足場材を積んだ新型CANTERを実車展示し、現場での活用イメージをご覧いただけます。ぜひお越しください。

interview
夢のチカラ

サッカー解説者

Masahiro Fukuda

福田 正博さん

よりよい未来を実現するため、
自らの夢を信じて努力し続けている人がいます。
Jリーグ黎明期の浦和レッズを支え、
「ミスター・レッズ」として愛された福田正博さん。
人生の転機となった「ドーハの悲劇」、
サッカー人生で得た教訓について伺いました。



取材・文：奈良崎コロスケ／撮影：布川航太

小学6年生のときに 初めてW杯を見て 世界へ思いをはせた

Jリーグ黎明期に浦和レッドダイヤモンズのエースストライカーとして活躍し、移籍することなく引退した『ミスター・レッズ』こと福田正博。幼いころは甲子園を夢見る野球少年だったが、小学5年生のときに横浜の緑区から茅ヶ崎市へ引っ越したことで、劇的なサッカー人生が幕を開ける。

「担任になった田中先生がサッカーを教えている方で、強く誘われました。僕は毎週末横浜に戻って野球を続けていたので、最初は断っていたんです。それでも『平日も体を動かしたほうがいい』と誘

い続けてくれました」

田中先生のなかば強引な勧誘に折れる形でサッカーを始めた福田だったが、ほどなく「野球よりも自分に向いている」と感じるようになる。

「サッカーでは、野球以上に自分の足の速さを生かすことができる。それと僕の性格的に、誰かに言われたことをやるのがすごく苦手。野球って一球一球に細かく監督からサインが出たりするでしょう。でもサッカーは、サインがあるように見えて、実は一度ピッチに入ったら自分で判断と決断をして実行することが多い。そして、結果に対して自分で責任を負う。これは年齢関係なく与えられている権利なんです」

田中先生の義兄が読売クラブの指導者で、週に一度教えに来て

くれたことも大きかった。まだ小学生のサッカーが主流でなかった時代に、技術的なレベルを上げるための指導を受けた福田はめきめきと実力を上げていく。やがて週末に野球に行くこともなくなった。そんなとき、初めてW杯の中継を目にする。

「1978年のアルゼンチン大会。今みたいに情報があまりない中、ダイヤモンド・サッカー（三菱グループの提供で放送されていたサッカー情報番組）で中継があった。マリオ・ケンペスが大活躍してアルゼンチンが初優勝するんですけど、オランダとの決勝戦はすごい大観衆。紙吹雪が舞う真っ白なピッチで選手たちがプレーしているのを見て、『これが世界のサッカーなんだ！ W杯でプレーできたら幸せだろうな』って思いました」

”

最後までやりきったからこそ、
現役時代に掲げていた目標や夢に
勝るようなものはないです



Profile

1966年12月27日生まれ。神奈川県横浜市出身。93年のJリーグの開幕から浦和レッドダイヤモンズの象徴として活躍。95年には32ゴールをあげ、日本人初のJリーグ得点王に輝く。2002年に現役引退。現在は、サッカー解説者としてテレビなどで活動している。



月に1回ほど行っている講演の様子。講演テーマは「目標達成への道のり」など。



2014年から「埼玉スタジアム2002サッカースクール」の校長を務めている。サッカー教室イベントに招かれることも多く、子どもたちの指導に精力的に取り組んでいる。



激動のサッカー人生 「ドーハの悲劇」を経て 日本人初の得点王に

1989年、中央大学卒業後、日本サッカーリーグに所属する三菱重工業サッカー部（後の浦和レッズ）に加入した福田にいきなり試練が訪れる。クラブが2部に降格してしまったのだ。ドイツのクラブに留学する予定もあったが、次のシーズンでは開幕から即戦力として起用されることに。その結果、ルーキーながら2部リーグ得点王に輝き、クラブを1年で1部に復帰させる立役者となった。

「当時調子が良くない状態で三菱に入るも、クラブは2部に降格。そして、監督に就任した斉藤和夫さんに厳しいトレーニングを課せられた。いろいろなことが起きたけど、僕にとっては一から自分を見つめ直し鍛え上げたことで、本来の自分を取り戻せた1年でした」。1990年には日本代表に初選出。3年後にいいよJリーグがスタートし、日本代表にとってW杯出場は至上命題となっていた。しかし、秋には「ドーハの悲劇」

が待ち受ける。あの瞬間、途中出場でも福田もピッチに立っていた。

「ドーハで行われた最終予選の5試合で、僕は何もできなかった。今振り返ると、プレッシャーを感じていたんだと思います。挑戦者ではなくて、受け身になっていた。当時の自分は力不足でした」。

こうして自信を大きく失い帰国。それでも不安を解消するためには、ボールを蹴るしかなかった。

「サッカーから離れるという選択肢はなく、少しでもピッチにいる時間を長くすることで、少しずつ自分を取り戻していきました」。

果たして1995年には日本人初のJリーグ得点王に輝く。

「その年から就任したオジェック監督が、僕の持っている力を最大限に引き出してくれたおかげです」。

2002年には、ドーハの悲劇で日本代表を率いたハンス・オフトが浦和レッズの監督に就く。前年に引退を考えていた福田だったが、オフトのもとでもう一度サッカーをやりたいと現役を続行し、シーズン終了後にピッチを去った。引退後の福田に夢はあったのか。

「あるわけがないです。やりたいことが他にあるから辞めたわけじゃない。年齢や肉体面で引退せ

ざるを得なかった。最後までやりきったわけです。今でも現役時代に掲げていた目標や夢に勝るようなものはないですね。サッカーより好きなものはないですから」。

引退後は浦和レッズのコーチも務めたが、現在は解説者としての活動がメイン。そのかたわら週に2回、サッカースクールで子どもたちに指導を行っている。

「生徒たちには『感謝する気持ちを持ってほしい』と常に伝えていきます。得点王を取った年、僕の中で一番変わったのは、周りの選手を信じられるようになったこと。サッカーっていうのは、一人では何もできないんです。そのために、リスペクトを持ち、人の話は素直に聞く。そして最後は笑顔だよ」と

笑顔——。自分に厳しく、クールな印象があった福田の言葉としては、少し意外にも感じられる。「一流の選手は、みんな表情が緩んでいます。車の運転も、余裕がなくなると人に道を譲らなくなったりする。だから努力して表情を柔らかくすることが大事。残念だけど僕は現役時代、それができなかった。『できていたら、もっといい成績を残せていたと思うよ』と、子どもたちには話しています（笑）」。

対象車種

大中小型 トラック・バス

シガレットライターソケットはシガレットライターへの電力供給を目的に設定されています。

シガレットライターから電気製品の電源を取り出した場合、過大電流が流れソケット部が過熱し火災のリスクが高まり、最悪の場合火災につながる恐れがあります。

Please help us keep everyone safe



三菱ふそうからの
お願い

不具合事例



シガレットライターを
電源とする電気製品を使用すると



火災のリスクが
あります！

⚠ 注意① シガレットライター（全車共通）

- ・お子さまにはシガレットライターを触らせないでください。やけどをする恐れがあります。
- ・シガレットライターの金属部分には触らないでください。やけどをする恐れがあります。
- ・シガレットライターを手で押し込んだままにしないでください。過熱して火災を起こす恐れがあります。
- ・シガレットライターが30秒以上経っても戻らないときはすぐに引き抜いてください。過熱して火災を起こす恐れがあります。故障していますので、シガレットライターを使用せず速やかに三菱ふそうサービス工場での修理を受けてください。
- ・シガレットライターを押し込んだまま車から離れないでください。火災を起こす恐れがあります。
- ・シガレットライターを変形させたときは三菱ふそうに純正部品の交換依頼をしてください。変形はシガレットライターの飛び出し不良となり火災を起こす恐れがあります。
- ・交換するときは規定の電圧(24V:大・中型車 / 12V:小型車)のシガレットライターにしてください。12V(大・中型車) / 24V(小型車)用のシガレットライターなどを使用すると火災や故障を起こす恐れがあります。
- ・シガレットライターを電源とする電気製品は使用しないでください。過大電流が流れ配線が過熱し、火災を起こす恐れがあります。また、シガレットライターのソケット内部を損傷させる恐れがあります。
- ・シガレットライターの挿入口内部に水などが入ってしまったときは、ショートによる火災を起こす恐れがありますので、三菱ふそうサービス工場での清掃をお受けください。



⚠ 注意②

先端部にゴム製の抜け止めが
装着された電源プラグの使用
による不具合事例が報告され
ています。

注意とお願いについて

シガレットライター

ご使用時の

大中小型トラック・バス

点検・整備についてご不明点などございましたら、お近くの三菱ふそうサービス工場にお問い合わせください。



READER'S VOICES

— 物流の現場より —

皆さまの共感を集めるべく物流の現場で起きた「ちょっと聞いてよ」を大募集。応募フォームよりお声をお聞かせください。

05/06月号のアンケートテーマ

教えて！みんなの“現場あるある”

洗車してホイールを磨いて
気分よく仕事に出ると、
現場でドロドロになってショック。
静岡県 ドライバー



拭き上げがめんどくさいから、
わざわざ雨の日に洗車する。
茨城県 会社役員

編集部からのコメント
ピカピカに磨いた直後ほど、汚れたときの
ショックは大きいですね(笑)。

編集部からのコメント
なるほど、「どうせ濡れるし」
という開き直りですね(笑)。

ナビ通りに進んで右折しようとして、
まさかの右折禁止場所
だった。早めに標識を確認してい
たので、右折せずに直進しました。
千葉県 管理職

ナビの案内で行ったら高架下
の高さ制限されて通過でき
なかった。迂回した。
福岡県 会社役員

編集部からのコメント
ナビって細かい情報が反映されてい
ないこと、たまにあります。やっぱり最後
は標識確認が大事です。

編集部からのコメント
「この高さ、無理だ……」という場面、あり
ますよね。大型車ならではのヒヤッとする
瞬間です。

この仕事を続けていてよかったと思う瞬間

トラックを所有しているので、
災害時にボランティアで
救済できたこと。
秋田県 会社役員

編集部からのコメント
非常時に誰かを助ける力になるの
は、とても誇らしいことですね。

荷物と車両をマッチングできて、
お互いが喜べたとき。
滋賀県 運行管理

編集部からのコメント
相手に喜んでもらえることが、自分
の喜びに。やりがいになりますね。

何年も通っている集荷先で、いつ
もありがとうと、ドリンクやお菓
子をいただいたこと。
岩手県 ドライバー

編集部からのコメント
長年の信頼関係が伺えます。気持ちを
伝えてもらえるとうれいそうですね。

配達先のお客さまの笑顔。
埼玉県 会社役員

編集部からのコメント
感謝の気持ちが込もった笑顔を見ると、
日々の苦労も報われますよね。

◆2026年07/08月号のアンケートテーマ

先輩から教わった忘れられない一言

若手の頃にかけてもらった励まし、現場で受け継がれてきた教えなど、
今も胸に残っている「先輩からの一言」を教えてください。

回答例 *先輩に「急ぐときほど、ひと呼吸置け」と言われた
*社長に「会社の看板だと思って運転しろ」と教わった

一番思い出に残っているトラックは？

初めての車両や会社と共に歩んだ一台など、理由も踏まえて教えてく
ださい。運転されない方も、好きな車両があればお聞かせください。

回答例 *初めて一人で任された2013年製のCANTER
*10年以上乗り続けた、SUPER GREATの冷凍バン

ご回答いただいた内容は「2026年09/10月号」にて掲載の予定です。

PRESENT

本誌や三菱ふそうへのご意見など、
アンケートにご協力いただいた方に
貴重なサイン色紙やFUSO
オリジナルグッズをプレゼント！

◆アンケート&応募方法

スマホ&PCから簡単に
ご回答いただけます

スマート
フォンから



PCから



<https://forms.cloud.microsoft/r/TKy9L8kbCx>



プレゼント応募も
同時にOK



福田正博さん
サイン色紙

3名様

福田正博さん
サイン入り
サッカーボール 1名様



SUPER GREAT
ステッカー 4名様

eCANTER
ブロックメモパッド&
FUSOロゴ入りボールペン

4名様



SUPER GREAT
キーホルダー

3名様



スタンド
ワイヤレス
充電器

4名様



回答&応募締切
2026年
8月31日(月)

※ご記入いただきました内容は「FUSO magazine」誌面充実のためにのみ利用させていただき、ご本人の同意なく、個人情報を第三者に
開示することはいたしません。個人情報に関するお取り扱いにつきましては、三菱ふそうトラック・バス ホームページをご覧ください。

十人十色のビジネスに。 みんなのトラック、新型キャンター。

使う人一人ひとりにとって、いいトラックって何だろう。

使うほどに差がつく低燃費、扱いやすい運転操作性、

心地よい室内、何よりも大切な安全性や信頼性…。

お客様によって気にする所はそれぞれですが、
三菱ふそうは十人十色の幅広い声にきちんとお応えし、

キャンターの完成度を一段と高めました。

新時代の働きで、みんなの毎日の仕事を

活き活きと彩っていく新型キャンター。

どんな現場でもベストを尽くすパートナーが、

お客様の活躍をもっと輝かせます。

CANTER

NEW CANTER
ウェブページはこちらへ



みんなの仕事に、新たな効率とやさしさを。

- JH25燃費基準+5%達成（一部機種はJH25+10%達成）
- 快適で爽快な走りのデュアルクラッチ式AMT「DUONIC®2.0」
- フル液晶メーター採用
- 安定稼働をサポートする先進安全装備の充実
- センターディスプレイ（全車メーカーオプション）



トラック・バスのお問い合わせは、三菱ふそう販売店へ



三菱ふそう
公式アカウント



スマホのカメラでQRコードを読み込むだけ！

三菱ふそうトラック・バス株式会社

www.mitsubishi-fuso.com